

原子力規制委員会記者会見録

- 日時：平成29年5月10日（水）17：00～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：田中委員長 他

<質疑応答>

○司会 それでは、お伝えしていたお時間になりましたので、ただいまから原子力規制委員会の定例会見を始めます。

皆様からの質問をお受けします。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願いします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。アベさん。

○記者 日本経済新聞のアベです。よろしくお願いします。

東電の柏崎刈羽原発の関係でお尋ねしたいと思います。適合性審査の申請資料については、今、規制委員会側は東電に資料の再提出を求めている状況だと思います。東電は、そんな遠くない時期には再提出することになると思うのですが、その後の規制委員会の対応についてお尋ねしたいのですが、審査書案の取りまとめに向けて、具体的にどのような手続をこれから進めていって、さらにどのような点の確認が特に必要だとお考えになりますでしょうか。

○田中委員長 補正申請の提出がまだ見えていないので、いつになるかはちょっとわかりませんが、2月末からですから、随分たちましたけれども、それはそれできちっとやっているといます。それで、実際出てきたらどうするかということについては、もちろん申請書について、今までの審査会合を踏まえて、きちっとできているかどうかは確認する必要があるだろうと思います。多分、それは更田委員が中心になってやると。その後どうするかについては、今のところ、具体的に検討しているわけではない。いくつかのことは考えなければいけないと思っていますけれども、具体的に今申し上げられるようなことは、まだ中で意見を交わしているわけではないということです。

○記者 わかりました。関連してもう一点なのですけれども、出した後に、田中委員長は新社長を一度呼んで、組織体制とかについて直接意見を交わしたいとおっしゃっていると思います。東電の株主総会は6月23日に決まっていると思うのですが、新社長を呼ぶ時期についてなののですけれども、大体どれぐらいの間隔でお考えになっているのでしょうか。数週間ごとか、もしくは数カ月とか、どれぐらいをお考えになっていますでしょうか。

○田中委員長 今は何とも言えないですね。申請書をよく見て、基本的に組織マネジメントの問題とか、安全文化とか、品質管理体制とか、いろいろなことについてトップに確

認すべきことが多分あります。普通に考えれば。社長が変わるわけですから、なおさらそこは確認しなければいけないというところかと思うのですが、いつになるかということとは言えません。ただ、6月23日にかわるとすると、それより前はないのではないですかね。まだ出てきていませんからね。規制の審査確認だって、そんな簡単に、すぐ、すつと済むわけではないと思いますので。

○記者 わかりました。ありがとうございました。

○司会 ほかにございますでしょうか。スミさん。

○記者 共同通信のスミと申します。よろしく申し上げます。

昨日、今日と国会の方で更田委員の田中委員長の後任候補ということで、所信聴取があったと思うのですが、発言内容を聞かれたりされたと思うのですが、委員長としてどういうふうに聞かれたのかを教えてください。

○田中委員長 特にコメントすることはありませんね。彼とはこの4年半ずっと一緒に仕事してきたわけだし、そういうことを踏まえて発言されたのだらうと思うし、何もありません。

○司会 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。ナガイさん。

○記者 共同通信のナガイです。

福島県の浪江町の山火事に関連してなのですが、ネット情報で放射性物質がたくさん飛散したといったような話も出ていると思うのですが、正しい情報を発信する役目もある規制委員会として、こういった情報をどう受けとめているかというのと、何か対策ですとか、注意喚起等を考えていたら教えてください。

○田中委員長 基本的に国というか、私どもがモニタリングをするところと、それから、あちこちにモニタリングポストとかがありますので、それから、県がやっているのもありますし、そういうところで、今、新聞なんかを見る限りではそういった問題は起きていないと思うのです。

事故当初は杉の葉とか、葉に結構セシウムがたくさんついていました。でも、杉の木というのは、私は専門家ではありませんけれども、大体3年ぐらいで、常緑なのだけれども、入れかわるのだそうですよ。もう、だから、2度ぐらい入れかわっているから、その後は下の方にはついていても、そんなに飛び上がるものではないということなのではないかと思いますが。ただ、今、県は確認の測定はしていると思いますけれども、国の方もやっているのですよね。

○司会 今はやっていません。

○司会 ほかにございますでしょうか。今、手が挙がっているのはお1人ですが、お1人でよろしいですか。

では、最後に、ミヤジマさん。

○記者 FACTAのミヤジマです。

4年間の委員長を振り返られまして、先生が政治家と会うという、馳さんとか何かでああいう、もんじゅのときとか、ああいうような公式なものは別にしまして、結局、マスコミに見えない形で政治家と会うと言っているのは、例えば、国会に出たときに隣に政治家がいるとか、ほとんど接触していなかったということではないのでしょうか。そういう政治家というか、経産省や仕事にかかわる役所も含めてどういうルールでやっておられたのでしょうか。

○田中委員長 基本的には政治家と会って原子力規制の話をするとか、そういうことはありませんね。国会等で会えば、挨拶ぐらいはしたことは何度かありますけれども。

○記者 それから、もう一つ、これは地元の方からちょっとそういうのをあれだったので、伺いたいのですけれども、委員長という仕事は、4年間やられて何が一番大変なのですか。仕事自体が大変なのか、仕事外の、要するに、拘束というか、不自由さが大変なのか。要するに、いわゆるそういうふうに、そんなに外に会って外交するような、どこの社長でもそういうのをやるのですけれども、そういうのをやっていないとしたら、どういのが、今回、再続投されない背景の大変さというのは何だったのでしょうか。

○田中委員長 一言では言えないですね。この4年半の間も随分いろいろ状況の変化がありましたし、いろいろな問題がありましたから、その時々に対応していくというところかと思います。

それで、今日みたいな会見もほとんど毎週1回はやってきていますので、そういうことも含めてですし、国会も年に50~60回は呼ばれているし、それから、それだけで済めばいいのですけれども、実際には審査とか、いろいろな状況がある程度、一定程度把握してよくウオッチしていなければいけないし、それについて意見を言うときは言わなければいけないというような、いろいろなことがいっぱいあるので、そろそろもう年齢もありますし、疲れも出てきたということです。一言では言えないですね。

○記者 もう一つだけ伺いたいのですけれども、防衛大臣が女性になっているわけなのですけれども、委員長が女性になるなんていうことはあり得ることですかね。あるいは年齢的にはやはり60歳とか、若い人がいいとか、後任に対して全くコミットしなかったと思いますけれども、4年やられて、委員長というのはどんな人がふさわしいと思われるのか、少し伺いたいです。

○田中委員長 自分で言うのは変ですけれども、やはり組織理念というのを最初に作ったのは私は間違っていないと思いますので、そういった理念に基づいてきちっとできる人。一定程度やはり専門的知識がないと、この仕事は務まらないということもはっきりしています。

女性がいいか、男性がいいかということについては、私はどちらでもいいと思います。適任者がいれば女性で結構だと思います。ただ、今はなかなかそういう方がいないとい

うのも事実ですから、今回は更田さんということになったわけですね。私が選んだわけではないですよ、これ。官邸がそういう選択をされたということだと思います。

○司会 それでは、本日の会見は以上にします。お疲れさまでした。

—了—